

(公開可能議題1) 第19回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会・社会人選抜出場&準選抜選手

< 提出者 河明生 >

社会人選手の全日本FT大会予選会・第6回関西テコンドー選手権大会の試合結果をふまえて優勝者以外の社会人選手の中から選抜選手および準選抜選手を決めたい。

選抜理由は、「第19回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会要項」の「8、出場応募資格」の「1、日本テコンドー協会所属選手・優先出場順位」説明文と下記「その他」による。

なお、今回の選抜にあたり、全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会の創設者・主宰者としては、次のように考えている。

全日本大会に一度推薦出場し、後楽園ホールに立ったことに満足し、消えて行く学生選手よりも、学生時代にJTAに入門し、卒業後も修練に励み、昇段して指導者の道を歩む門下生および、社会人でJTAに入門して昇段し、支部の運営や指導補助等に積極的に協力している門下生諸氏に感謝するとともに「JTAの宝」として大切にしなければならないと考えている。

彼らは、「JTA七大精神」の「七、我々は日本跆拳道の道をまっとうすること」の具現者でもある。彼らは仕事と武道を両立しながら、選手としての鍛錬を怠らない「平成の武士」ともいえる。このような望ましい社会人指導者層を充実させて全国にJTAの支部や同好会を創立して行けば、「第二、第三の尾崎圭司」を発掘できると考えてもいる。

将来、指導者として優れた才能を発掘した際、全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会出場経験を生かしてほしいと希望している。

しかし、後楽園ホールのリング上でのフルコンタクトテコンドーは危険が伴うため、ある一定レベルに相手の技術が達していなければならない。それがフルコンタクトではないITFやWTFの全日本大会との違いである。また、初めて実施される蹴武の型試合は、格闘技の殿堂・後楽園ホールのリング上で行う後楽園ホールの歴史上、初めての武道の型の試合であり、一人で実演することから、一定のレベルに達していないとその精神的な負担は想像に難くない。これらの事情を斟酌し、次の社会人選手を選抜・推薦した。

一、男子組手試合

選手名(支部)	JTAランキング	優先出場順位理由	備考
1, 趙 哲来(福岡)	第12位	「 」と「 」に該当	予選会2位2回、3位1回
2, 津田 道(横浜南)	第13位	「 」に該当	予選会3位2回
3, 浅井 淳(愛知西尾)	第14位	「 」に該当	予選会無差別級2位1回
4, 霜倉 亮(岡山)	第15位	「 」に該当	予選会無差別級3位1回 岡山大学体育会昇格功労
5, 都築晋一(愛知大高)	第16位	「 」に該当	愛知県連新設支部責任者功労

二、女子組手試合

選手名(支部)	J T A ランキング	優先出場順位理由	備考
1, 松兼ひろみ(東京港)	女子第3位	「 」に該当	予選会2位2回 渋谷原宿支部運営功労

三、蹴武型試合

選手名(支部)	J T A ランキング	優先出場順位理由	備考
1, 河野昌俊(愛媛松山)	型第5位	「 」と「 」に該当	予選会3位1回
2, 廣川禎教(長崎佐世保)	型第6位	「 」に該当	予選会3位1回
3, 高橋佑輔(高知)	型第7位	「 」に該当	予選会4位1回
4, 稲垣 健(神戸六甲)	型第8位	「 」に該当	新設神戸市テコンドー協会理事

< 武田、盛島 > 異論なし

< 結果 > 上記のとおり、第19回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会における社会人選抜・準選抜の推薦出場選手を確定する。

(公開可能議題2) 長崎佐々支部(支部長廣川禎教)承認

< 報告者 河明生 >

長崎佐世保支部長・廣川禎教より、J T A 公認支部認定申請書が提出された。
内容は、下記の通り(抜粋)

新設支部名	J T A 長崎佐々(さざ)支部
新支部長	廣川禎教
段位	二段
場所	佐々町武道館
練習日	毎週水曜日 午後7時30分～9時30分

廣川は、すでに長崎佐世保支部の運営実績があり、本年新設の佐賀同好会も適切に束ねている。
佐々は、彼の故郷でもあり、
J T A が理想とする「郷土愛に根ざした J T A 支部活動を通じた郷土の地域社会の活性化」にも資する。
他の支部とのテリトリー問題も生じないため、承認したいと思う。

< 武田、盛島 > 異論なし

< 結果 > J T A 長崎佐々支部を承認する。